

令和7年度 第2回松戸市文化スポーツ推進審議会 議事録

1. 開催日時	令和7年12月15日（水）18時～20時
2. 開催場所	松戸市役所 新館7階 大会議室（zoomによるオンライン含む）
3. 出席者等	<p>【委員】（名簿順）11名 熊倉委員（会長）、小島委員、岩下委員、坂委員、 局委員、大成委員、武田委員、森委員、山根委員、和座委員、 羽賀委員</p> <p>【松戸市】 文化スポーツ部長、生涯学習部長、学校教育部長、 文化スポーツ政策課長、スポーツ振興課長、 スポーツ施設担当室長、文化にぎわい創造課長、 国際推進課課長補佐、社会教育課長、 文化財保存活用課長、博物館次長、戸定歴史館長、 図書館長、事務局（文化スポーツ政策課）ほか</p>
4. 傍聴者	3名
5. 次第	1 議事 （仮称）松戸市文化スポーツ創造のまち推進方針について 2 その他
6. 資料	<p>【配付資料】</p> 資料1 （仮称）松戸市文化スポーツ創造のまち推進方針について 資料2 令和7年度第1回文化スポーツ推進審議会 会議録 資料3 令和7年度第1回文化スポーツ推進審議会 意見票
7. 議事	以下のとおり

開会

・文化スポーツ部長挨拶

1 議事 松戸市文化スポーツ創造のまち推進方針について

(事務局)

資料1を用いて説明。

(森委員)

資料1の10ページ、文化スポーツの本質的価値というところにある言葉が何となく楽しいだけみたいな印象がある。芸術作品やスポーツは例えばそこから学びがあったり、もっと探求してみたいとなったり自己研鑽に繋がったりする。一方で何か驚いたり、深い洞察があったり、癒されたりなど、個人的な価値観にも影響すると思っている。

何か書き加えられるならば、もう少し深みみたいなところが表現できるとよいと思った。

あと、同図の円の外側に生涯学習的な意味も含まれるのだと思うので、それも入れた方がよいと感じた。

(武田委員)

資料1の 9 ページの行政の役割の②「多様な主体」は具体的にどのあたりを示すのか。

(事務局)

例えば企業や学校、行政に関わらず、文化スポーツ関連団体等も想定している。

(武田委員)

これから出てくる担い手も受け入れるっていう意味合いで、特に何というふうには限定してないと捉えてよいのか。

(事務局)

施策を推進していく中で、想定していなかったような団体との連携も含めている。

(事務局) (部長)

文化スポーツ政策を松戸市全体で進めていく時に、協働という行政の基本的な考え方がある。政策と一緒に進めていただけるような NPO やまちづくりの会社や団体もいろいろな形でご協力いただいて、政策を実現していくというようなイメージを持っている。

（和座委員）

6 ページ「こども・青少年が主役となる若者文化の推進」とあるが、重要なポイントだと思う。こどもが自ら色々なことを提案しながら、様々なものに参画していくということがこどもの自尊心とかをさらに育て、前向きな気持ちになっていくっていう意味ではすごく重要なことではないかと思う。もう少し詳しくその辺りを教えてほしい。

（事務局）

考え方としては、そこまで認知されていない個別の活動や新しい活動に取り組んでいるこどもたちに対し、激励金等の支援であるとか、活動・活躍の場を設定していくというようなイメージを持っている。

（和座委員）

こどもたちの様々な活動を評価してあげるということはすごく重要だと思う。

例えば、こどもたち自身が様々なことを提案しながら、一人の人間として対等に話し合っていくという取り組みはあるのか。

（事務局）

こどもたちを尊重し、大人や行政からの押しつけという形ではなく自発性を大切にすることやこどもたちの考え方に寄り添ったような形で進めることは重要だと考えている。

参考資料でこども新聞を添付している。こういった場のほか、むしろ声をなかなかあげられないこどもたちの声もきちんと汲むべきだというような趣旨のお話もいただいているが、アプローチの方法も引き続き考えていく。

（和座委員）

自ら色々なことを提案したり、話したりできるこどももいるが、そういうことが苦手なこどももいる。そういったことを含めてこどもの意見を取り入れるということをより一層グレードアップしてほしい。

（小島委員）

今日の議論に入る前の前提として、文化とスポーツを中黒でつなぐということは、大きな概念である文化とその中の一部であるスポーツという全く違う概念のものを併記していることになるので、非常に議論がしにくくなると考えている。

（事務局）（部長）

文化とスポーツを一つで考えるということは審議会の初めにご説明したところであるが、今日の議論をふまえて必要に応じて整理をしていきたい。

(小島委員)

あくまでも案として提示されており、検討の余地があると理解した。もちろんそれぞれの根拠法に則しているということも丁寧な資料を作っていただいて十分承知はしている。ただし併記するということは必ずしも良い方法ではないと思う。

今回この議論をして、審議会で答申をするっていう過程では、もう少しこの言葉の使い方、表記の仕方は厳密に概念整理をしていく必要があると感じた。

(熊倉会長)

小島委員はどうすればよいとお考えか。確かに非常に広義の定義からすると、文化は自然の対概念で人為的なものを指すというものであるが、政策を推進するうえでは細分化されている。また市の所轄が文化スポーツ部となっている。中黒をとり「文化スポーツ」とするのも一案か。

(小島委員)

併記した表記だと論理的に矛盾してしまうので分けて書くべきだと考える。内容に即して文化は文化、スポーツはスポーツと書き分けていくことはできると思う。

内容に即して文化政策が果たす役割スポーツ政策が果たす役割と明確に書き分けていった方がわかりやすいかと思う。

(熊倉会長)

最初に話せばよかったが。他に意見はあるか。

(森委員)

熊倉会長のおっしゃるように文化の概念は自然の対概念であって、人の作ったものは全て文化であるといえる。ただしここで用いている文化は、いわゆる学校の文化部にあたる文化だろう。方針のはじめに定義を記載して全体に入っていけばよいと思う。

(小島委員)

概念整理の説明はすべきだと思う。文化とスポーツを併記した文言だけ見てしまうと、全く相入れない階層が異なる概念を二つ並べてしまっているように受け取れる。やはり文化とスポーツの特性は違うので、書き分けていくってことも一つの方法だと思うが、これを生かしていくとすれば、最初に概念整理をしっかりとできるとよい。

(熊倉会長)

概念整理は後段で法的根拠、何を範囲とするのかということが国のそれぞれの基本法にのっとって明示されているので、そこはいいと思う。

そもそものところで松戸市が文化とスポーツを一緒に使う部を作られたというところは、21世紀後半の市民社会のありようを考えた時には、何となく目指されていると

ころは理解できる。

大して変わらない気もするが基本理念、基本目標などで中黒を避けるとして、私が一番気になっているのは「文化スポーツ創造のまち推進方針」という方針名。これこのままだと「文化とスポーツを創造する」ということになってしまう。それでは従来の文化芸術基本法の二の舞になってしまうので、「文化とスポーツによる創造のまち推進方針」とかだとわかりやすくなるか。

ひとまず中黒はやめる方向性も事務局で検討してほしい。

（武田委員）

「創造のまち」というのはどういうことかがまず気になる。

それと概念整理としての注釈が入ることで、表現に疑問を感じるような方への答えに結びつくものがどこかに書いてあるということは親切でよいと思う。

5 ページの基本理念のところで「文化・スポーツがひらく」とあるが少し抽象的でイメージが伝わりにくい。

（熊倉会長）

まず表題のところで、この推進方針は「文化とスポーツを推進する」のではなく、「文化とスポーツを推進することによるまちづくりを目指す」ものだとして最初の会議に申し上げた。これは別に国に倣う必要はないが、20 世紀型のそれぞれ個別に推進していた日本の政策を改めて、より複合的に、文化やスポーツをみんながどんな形で推進するようになると、社会がどのように変わっていくのだろうかということに今議論は大きくシフトしているので、この方針もそれに倣うべきだと個人としては強く思っている。

5 ページの基本理念の「ひらく」は開拓の「拓」の字で、文化やスポーツが都市の魅力、都市の活力と市民の誇りを作るイメージかと理解したが、どうか。

（事務局）

意味的には開拓の「拓」と考えている。

（熊倉会長）

ひらがな表記だと誰でもわかりやすいかも、ということだろうか。

（山根委員）

同じようなところで基本理念の「奏でる」という表現もスポーツとはあまり関連がないと感じる人もいるかもしれない。

（事務局）（課長）

文化やスポーツそれぞれの活動が楽器に例えれば、それぞれの一つの音が、全体で一つになることで一つの作品のように松戸市全体を作り上げていくというニュアンス

を考えている。

表現については、先ほど「拓く」とあわせて事務局で検討する。

（熊倉会長）

スポーツを含めた一人一人の表現行為を音楽に例えたのだろうと思うが、少し抽象的な表現がちりばめられているので少しシンプルに整理してもよいかもしれない。

（武田委員）

「拓く」は小3で習うので難しくないと思う。むしろ引っかけたら辞書引いてくれたらイメージが理解しやすいので嬉しいなぐらいでいかがかなと思った。

（熊倉会長）

ルビを振るのも一案である。

（坂委員）

6ページのそれぞれの基本目標に対してKPIが設定されているが、エビデンスを伴う根拠に基づき数値化され、定量的な評価が可能な指標とし、達成の度合いが明確に分かるものでお願いしたい。数値化が困難な指標の場合は、アンケートなどの実施により定量的な評価に置き換えて設定して戴きたい。

何れにしても、現状を明確にし、市民の声を広く聴取・反映して合理的根拠に基づく指標の設定をお願いしたい。

（山根委員）

同じくこの 6 ページ「具体的な事業(例)」では突然具体名が現れるものがいくつか見受けられて、七草マラソン、ラーメン、コーヒー等という表現はここで出すのが正しいのかどうか、公共性を担保するためには控えた方がよいのではないかと感じた。

（事務局）（部長）

ここに入れる項目についてはまだ精査が必要だと考えているのでご意見も参考にさせていただく。1点、具体的な事業として、この戦略の方針に基づいてしっかりと成し遂げていくものは明確に記載したいという思惑もある。

（和座委員）

この点について、視点としての抜け漏れなどの意見はしてよいのか。

（事務局）

この議論の場で申し上げていただくことは可能であり、また、後ほど意見票でも承りたい。

(和座委員)

あらためて意見させていただく。

(事務局)(部長)

全ての事業を網羅的に記載する性質のものではないので意見きちんとお伺いして、事務局で整理をしていく。

(小島委員)

11 ページの参考資料 4 で記載している「文化施設」は何を指すのか。

(事務局)(部長)

ホールや劇場をイメージしている。社会教育、生涯学習で取り組んでいるような公民館などの施設は教育行政の方に記載している。

(小島委員)

目的に応じた施設をそれぞれ位置付けて考えるという理解をした。

(武田委員)

6 ページの具体的な事業(例)で「文化振興財団の戦略的機能転換」だけ二重丸になっている。どのような意図か。

(事務局)

誤植である。正しくは新規・拡充の黒丸である。お詫びして訂正する。

(熊倉会長)

地域版アーツカウンシルが文化振興財団の戦略的機能転換でできるのかという点は疑問もある。

(森委員)

既存の文化振興財団の中にアーツカウンシルという機能を入れてしまうとまくいかな懸念はある。全国的に見て、名古屋市は文化振興財事業団と分けていて、まずは独自の任意団体(名古屋アーツカウンシル／クリエイティブ・リンク・ナゴヤ)ではじめており、今後新しい組織(一般社団の予定)を作ろうとしていると聞いている。アーツカウンシルについては、ここまで言い切らずに、その手前の段階で、「どうするか考える」みたいな書き方でもいいのでは、と思っている。

(熊倉会長)

社会的弱者、特にこどもに関して全体に明るいトーンで書かれており、危機感が少ない点が少し気になる。

例えば不登校についても対応が多様化していて、こどもが学校に行きたくないなら行かなくていいと思う親御さんは多い様子。国もフリースクールなどへの登校でも義務教育をとして卒業証書を出すなど柔軟な体制になってきている。フリースクールで芸術を用いていわゆる学校教育に馴染めないようなお子さんたちの才能やコミュニケーション能力を引き出すという可能性もあるが、費用的に高い。

学校に行かない・行きたくないこどもたちの中に将来的に大きな格差が生まれてくることは歴然であって、社会適応からドロップアウトしてしまったり、家庭の環境や経済状況等、色々な意味でこどもたちが置かれている状況、環境は非常に複雑化している。このことをどのくらい問題意識として持っているのかというところが少し気になっている。もう少し社会的包摂という言葉を入れるなど検討してほしい。

あまり具体的な事業に縛られないで考えてほしい。例えば、多様な担い手によるアイデアで斬新な事業をするとか、そうなるといいなと思う。そういった柔軟な考え方の団体、市民は松戸市にいるということをゲストスピーカーの方から学んだので、ここをこうやればいいと決めつけないでほしい。

あらためて各委員から意見をいただきたい。

(小島委員)

10ページの図、文化スポーツを基調にしてまちづくりに向かうということはわかりやすい。方針の表題も文化スポーツでまちづくりをするということが明確に伝わるようなものに変えていくことも検討してはどうか。

5 ページの基本目標「こども・青少年が文化・スポーツに夢中になれる環境づくり」で、重点目標に「青少年が地域で自由に文化・スポーツができる機会と場の提供・体験格差の解消」とあるが、これは「文化ができる機会」という文章になり、意味が通らないと考えている。こういった点を少し精査していただいた方がよい。

(岩下委員)

スポーツに特化した意見となるが、基本目標「文化・スポーツがつなぐ地域共生」に関連して、障害の有無等に関わらずスポーツをやりたいのに場所がないとなった時に近隣他市では企業と連携した取り組みが拡充したと聞いたことがある。松戸市も企業やプロスポーツと積極的に連携して行ってほしい。

(坂委員)

KPI の設定も重要だがこの方針で何が一番やりたいのか、どのようなまちづくりを推進していきたいのかが、わかりづらいと感じている。多様な視点から設定された重点戦略はわかるが、その中でどのような順番で推進していくのかが、わかりやすく市民に提示できるとよい。

先ほど KPI について申しあげたが、重要なのは政策内容であり、進捗の難易度や達成速度などを踏まえ、明確に推進していくステップがわかるとよい。

（局委員）

資料1はよくまとまっていると感じた。こどもたちのいじめや不登校についての話も出ていたが、教育委員会で「学びの松戸モデル」の計画案というのが上がってきている。その中でもヤングケアラーや経済的な問題で学校に行けないといった社会課題にも言及されており、教育委員会とうまく連携をとって松戸市全体で取り組んでいてほしい。

（大成委員）

松戸市は色々な文化事業をやっていて本当に面白い地域だなと思っている。社会的な課題やこれから伸びていくであろう分野についても整理して、伸ばしていくところは伸ばしていくし、開拓していくところは開拓していくというような方向性を示せるとよい。

（武田委員）

「学びの松戸モデル」や「文化財保存活用地域計画」などの改定の時期と重なっているタイミングだと思うので、連携やリスタートと一緒に切れる機会を十二分に生かすような方向性を模索してほしい。新たな政策をよい形で織り込んでいけるよう期待している。

（森委員）

こどもの社会的な課題の話が出たが、多様な市民という点で LGBTQ、外国籍の市民への対応や少子高齢化対策も見えてこないの、考えていけるとよい。

6 ページの具体的な事業(例)に「中心市街地活性化エリアマネジメント事業の推進」とあるが、ここの部署の方でやることではないと感じた。推進ではなく協働なのではないか。

（山根委員）

私自身も文化というのは明るい側面だけではなくて負の感情やドロドロした人間の営みが現れてくるものと考えている。ネガティブなことはここに載せる必要はないのかもしれないが、一面的に語るのはやはりよろしくないと感じている。

文化やスポーツに触れる機会が開かれていてほしいとは思いますが、それと同時に結果は平等ではないことが、残酷だが事実というところはふまえてほしい。平等なゴールというような、間違ったゴール設定はしてほしくない。

（和座委員）

元々スポーツは学校教育の中に深く根ざしていると思うが、成果主義、勝利主義も

今の教育行政、学校の中に根を張っていると感じている。必ずしも悪いことではないと思うがそれが変な方向に走ってしまうと、例えばいじめや体罰とかにつながってくる。

多様性というか様々な価値を見つめながら、お互いの個性を認めて共感して広げていく、そういったことがすごく重要だと思う。例えばスポーツだと、こどもたちの楽しみや遊びだとか、そういったことを取り上げながら、体力を増進していく。そういった流れが重要だと思う。

何か一つの物差しで物も見えていくような時代ではない。もっと多様に外国人も含めて、人それぞれの良さを認め合いながら松戸市のこどもたちの場や機会を充実してほしい。

（羽賀委員：オンライン）

まちづくりや文化スポーツ政策については専門家ではないので細かいところまで理解できていないかもしれないが、資料はとてもよくまとまっていると感じた。すごくいいことが書いてあるので、それをどう実現していくかが大事なのかなと思う。

個人としては車いすラグビーで金メダルを獲れたというところもあるので、パラスポーツであるとか、協力できるところは協力していけたらよいと考えている。

（小島委員）

教育行政と文化スポーツ行政は線引きが難しいと感じているが、教育行政の方は学校教育を前提とするとよいと考えている。文化スポーツ行政は家族や社会といった中で教えということで教育の質の違いとか関係性の違いを明確にできるかと考えている。

6 ページの解決すべき課題と KPI との関係性について。KPI はどうしても数値で表記していくことになると思うが、文化の問題を考えると博物館がわかりやすい例だが、定量的な評価がされる一方で、定性的な評価はなかなか理解されない。充実感や満足度といった個人に関わる定性的な評価をどう加えていくかも考えてほしい。

（森委員）

KPI だけで評価をする現場にたくさん立ち合ってきたが、実際そこまで重要ではないというか、数字が出る頃にはもうみんなわかっていて、儀式的に数字を並べるという状況になることも多い。

評価しないといけないから評価するということでは意味がない。まちを良くしていきたいといった原点に返った時には、例えば熊倉先生が本も書かれているピアレビューという方法もある。数字として出てこなくても定性的な評価をまちづくりにつなげていくということも考えられるとよい。

（熊倉会長）

目標値を達成できないと大変なので低い目標を設定しては意味がないし、定性的な評価でどう考えていくのかも含めて誰が評価するのかということも考えていかなくてはならない。

（武田委員）

先程森委員がおっしゃっていたエリアマネジメントについては、おそらく文化複合施設の関連なのかと推察する。

10ページの表について、文化に携わっている人は、スポーツはちょっと違うという感情を持つ人もいると思う。しかし、達成感、面白さや充実感というような、どちらにもとれるようなワードで書いてあり、Wellbeing や笑顔という言葉でのごしておらず、整理されていると感じた。

文化にしてもスポーツにしても地道な努力の積み重ねが必要だが数字などの現実を突き付けることで逆に傷つくことも実はいっぱいある。一人ひとりの成長のために感情にも配慮する KPI を設定してほしい。

（熊倉会長）

文化とスポーツが並んでいるところに違和感はなくはないが、そういうものとして発想を切り替えて、全ての人々の日常生活の中で文化あるいはスポーツ、あるいは文化とスポーツによって新たな体験や新たな価値観が自分の中に作られていくようなまちづくりを目指してほしい。

パブリックコメントの際に行政頼みの意見が出てくるかもしれないが、それはしょうがないとして、例えばスポーツは勝利至上主義ではなく身体的な遊びとして、羽賀委員の力もお借りして障害の有無に関わらず必ず何かゴールを目指さなければならないわけでないということもアーティストが入れば考えられると思うし、発信していったほしい。

価値観の硬直した従来のあり方はよい点もあるが、よりよくしていくことを一緒に考えるということもできるとよいと考えている。文化芸術が目指す社会包摂という視点でみても、文化とスポーツ両方の専門家たちが一緒に考えて、全然違う新しいものを作れるような装置になればおもしろいと思っている。だから松戸市は文化とスポーツをバラバラにするのではなく、それぞれが分断しがちなところで、お互いの本質的に面白いところを持ち寄ったりするような、例えば市民祭ができてそこにいろいろな人が参加して、ネットワークが文化やスポーツ、障害等様々な多様性を越えて、出会って、次一緒に何かやるといった出会いや機会が増えるプラットフォームを行政の力で用意する。そのくらいまで考えないと文化とスポーツが一緒になる意味がないと私は思う。お互いこれが当たり前と思っていることを創造的に破壊して、そうじゃないものを作っていくと面白いと思う。

例えばストリート系のスポーツだとか e スポーツだとか、流行だからここに入れるのではなく、それぞれの面白いところをちょっと違う観点から体験できる。そういったこ

とがコーディネートできると楽しい。そこまで今回の方針に書くのは難しいと思うが、そういったイメージで、それぞれの分野が抱えている課題や思い込みを、双方が一緒にやることで全然違うことをやってみたりとか、解消していけると面白いと思う。

以上で進行を事務局に戻す。

2 その他

- ・事務局より事務連絡。

閉会